

---

# **働き者と怠け者と壺の精霊、荒れ地にて。**

唐務新斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

働き者と怠け者と壺の精霊、荒れ地にて。

### 【著者名】

唐務新斗

N7884P

### 【あらすじ】

昔々、荒れ地に働き者と怠け者が移住してきました。

働き者は馬鹿正直に働きますが、怠け者には先祖代々より伝わる精靈の壺があつたのです。

昔々ある荒地に、働き者と急け者が移り住んできました。

近くに川も無い荒地を自らの住まいと定めたからには、水が必要不可欠です。働き者はバカ正直にせつせと井戸を掘り始めました。一方、急け者はご先祖様から譲り受けた『精霊の壺』を取り出し、その蓋を取り拝みました。その壺に住む精霊は、蓋を開けた者の願いを三つ叶えくれるのです。壺から姿を現したマツチヨな精霊は、ご主人様の命令を待ち受けています。

「さて、井戸を掘つてもらおうか

働き者が井戸を完成させるよりずっと早く、急け者の井戸が出来上がりました。

しかし、やはり普段の心がけが差を生むのか、働き者の掘つた井戸の方がはるかにたくさんの水が湧き出、しかも、それが非常に美味しい水だったのです。

急け者はそれがねたましくなりません。さっそく壺の蓋を取り、精霊に命令を下しました。

「あいつのうちの井戸の水を、臭い油に変えちまいか

悪意たっぷりの表情で急け者が叫ぶと、精霊は邪気の無い笑顔で親指を突き出しました。

俺にまかせておけ、の合図です。

こうして、働き者の井戸からみるみるあふれ出したのは、臭くて黒い油でした。すなわち石油でした。さつく働き者は会社を設立し、パイプラインを整備して石油の供給を始め、見事大富豪へと登りつめました。

この思いもよらない事態に急け者は怒り狂い、これで二度田となる壺の封印を解きました。ご主人様の怒りの形相の凄まじさに、いつもは陽気な壺の精霊が申し訳無せそうに身体を縮こまらせています。

「ええい、俺の井戸にも油が出るようにしやつ」

精靈は深くうなづきました。

「分かりました、ご主人様。前回はご主人様が望んでおられたことを勘違いしております！ これ以上失敗は繰り返しません」  
たちまち、急け者の井戸から臭いきどきとの廃油があふれ出しました。

三回目の願いを叶えた精靈は、再び壺の中で深い眠りにつきました。その顔は、やり遂げた男の満足げな笑みが浮かんでいたのは言うまでもありません。  
とつべんぱらつつのふう。

(後書き)

勧善懲悪つていいですよ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7884p/>

---

働き者と怠け者と壺の精霊、荒れ地にて。

2011年1月4日03時16分発行